

事例

糖尿病予防戦略事業

群馬県

群馬県は、糖尿病による新規透析導入患者率が全国と比較して高い状況にあり、糖尿病発症予防は重要な課題です。群馬県健康増進計画である「元気県ぐんま21（第2次）」において、糖尿病の重症化による合併症を防止する体制づくりや、食生活等を改善し、糖尿病有病者の増加を抑制する取組を進めています。

平成30（2018）年度は、学識経験者や市町村等の関係機関と連携し、国勢調査や特定健康診査・特定保健指導等のデータを用いて、地域の住環境等の特徴や生活習慣病等の健康課題を分析したり、従来の特定保健指導等の内容を検証したりすることで糖尿病予防指導プログラムの暫定版を作成しました。令和元（2019）年度は、「糖尿病予防戦略事業」として、そのプログラムを用いて、糖尿病予備群等を対象に、食事バランスの指導や運動の実技指導等、糖尿病の発症予防につなげるための講習を行いました。



管理栄養士による食事バランスの指導

事例

若い世代への栄養バランスのとれた食事の実践普及活動

滋賀県

滋賀県は、食育推進計画を策定し、琵琶湖やそれを囲む河川、農地、里山等の体験の場が身近にかつ豊富にある滋賀県の特性を生かした食育を推進してきましたが、朝食を欠食する人の割合、肥満者の割合、バランスのとれた食事を心がける人の割合等、依然として課題が多いことから、総合的かつ計画的に食育を推進するため、平成29（2017）年度に滋賀県食育推進計画（第3次）を策定しました。食に関する課題が多く、食育の取組が届きにくい若い

世代へのアプローチとして、県内の管理栄養士・栄養士養成施設と連携し、大学生に対して栄養バランスのとれた食事の実践普及事業を実施しました。学生の食生活の具体的な課題を把握するために、実態調査を行ったところ、毎日朝食を食べている学生は6割程度、朝食は主食のみといった結果が得られたことから、まずは、朝食を食べるという啓発活動を行うとともに、大学生協等の事業者とも連携し、栄養バランスのとれた食事の普及活動を行いました。



大学生協と連携した食育活動